

「尾花沢市建設業協会子ども絵画コンテスト」は、子どもたちが工事現場や家といったモチーフを描くことで新たな創造力を育み、尾花沢の未来を担う人材となっていくことを願い開催しております。令和6年度の表彰式は11月2日(土)、文化祭会場で行いました。



令和6年度 尾花沢市芸術文化協会 加盟団体・個人一覧

部門	会員名	部門	会員名
音楽	北村山吹奏楽団(吹奏楽)	美術	白風会(写真)
	尾花沢花笠太鼓(和太鼓)		東京木目込人形師範会尾花沢支部(人形)
	尾花沢音楽愛好会(合唱・音楽)		北葉会(絵画・美術)
	尾花沢合唱団(合唱)		おばなざわ匠の会(工芸)
演劇舞踊	正派若柳流 延弥会(日本舞踊)	工芸	井上俊廣(水彩)
	直派若柳流 紅柳会(日本舞踊)		柴崎元実(写真)★
	大山春彦(観世流・謡曲・仕舞)		高橋美山(陶芸)★
文芸	俳句 座の会(俳句)	花茶	松浦加奈(陶芸)★
	佐藤 良彦★		小原流 生花 尾花沢会(生花)
書道	田村天愛(書道)		龍生派 愛好会(生花)
	佐藤マキ子(書道)		華道栖草流(生花)★
			裏千家茶道 敬和会(茶道)
			本間正子(宗正)(茶道)

★…新規加入

編集後記
 瓢堂会長のもとで、市民が市民に芸術作品を紹介する記念事業を企画・実行して、市民芸術の意義をおおいに高めていただきました。問われてくるのはこれからです。芸文協活動の中で、本市には各方面で大活躍されている方との多くの出会いがありました。この方々と一緒に知恵を出し合っているような角度から芸術振興にむけて取り組んでいくことこそが新たな出発点だと思ひ知らされました。
 (芸術文化協会 副会長 笹原慶一郎)

私たちは尾花沢市芸術文化協会を応援しています

尾花沢市企業懇談会 尾花沢を支える8-1社の力！
 企業と地域の発展を目指す団体です
 会長 奥山 新司

尾花沢市建設業協会 ~地域に貢献~ 豊かな尾花沢の未来を拓く
 (有)旭屋設備 / (株)伊藤工務店 / (有)エヌエス・商会 / 大山建設(株) / (株)奥山建設工業所 / (有)菅藤組 / (有)国分建設 / ことぶき建設(株) / 三共開発(株) / (有)柴崎建設 / ツルケン(株) / (有)手塚建材 / (株)日建 / (有)長谷川工業 / (株)はながさ建設 / (有)北部建設 / 本間建設(株) / (株)マルニシ / (株)矢作組 (五十音順)

尾花沢市商工会
 商工会は 行きます！ 聞きます！ 提案します！
 商工会は地域に密着した 唯一の総合経済団体です。
 「事業者の経営改善」と「地域社会の発展」を2大事業とし、地域事業者が会員となりビジネスやまちづくりのために活動を行っています。

※芸術文化協会を応援して下さる企業・団体を募集しています。

芸文おばなざわ

尾花沢市芸術文化協会
 事務局 〒999-4225 尾花沢市若葉町一丁目8番25号
 尾花沢市教育委員会 社会教育課内
 TEL 0237-23-3332

令和7年3月31日発行

題字 佐藤 マキ子

芸文おばなざわ

■第23号 令和7年3月31日 発行 ■尾花沢市芸術文化協会

芸文だより刊行に寄せて

尾花沢市芸術文化協会 会長代行 千葉 亮子



日頃より、当芸術文化協会に御協力いただきましてありがとうございます。伊藤瓢堂会長が7月にお亡くなりになりましたが、市民文化祭に対する熱い思いを引き継ぎ開催いたしました。多くの市民の皆様にご来場いただき、大盛況に終わりました。ありがとうございました。

芸術文化についての思い・考え方は人それぞれで、見たり聞いたり触れ合ったりすることで価値を高めるものかと思ひます。目まぐるしく変化する生活の中で、豊かな人間性を培い創造力や感性を高められる芸術文化に出会えるように、積極的に参加し取り組む機会を作っていきたいと思ひます。市民文化祭は年一回の展示・発表・催し物の場となりますが、その一年間でスキルアップできるように仲間とともに楽しみながら取り組み、また次年度に生き生きと活動している様子を拝見できるのを楽しみにしています。

会員受賞 おめでとうございます (敬称略)

◆団体名：小原流生花尾花沢会 (一財)小原流新庄支部研究会

年間優秀賞 石 沢 大地 (小2年)
 加 藤 咲 彩 (小3年)
 清 水 悠 莉 (小5年)
 菊 地 明 紗 (中1年)
 國 分 百 華 (中1年)
 尾 崎 有 沙 (中2年)
 水 上 美 憂 (高2年)
 加 藤 和 華
 黒 山 恵 千
 近 藤 豊 淳

家元賞3年 水 上 美 憂 (高2年)
 加 藤 和 華
 黒 山 恵 千



年間優秀賞30年 加 藤 和 華

活動あれこれ

楽しみながら人形作り

東京木目込人形師範会尾花沢支部 伊藤ふみ子

私達の会は、月二回程度教室に集まっています。会員の減少もあり、細々とゆっくり楽しみながらの教室ですが、時には、健康教室や料理教室へと発展し、盛りあがりしています。

文化祭には、最近の作品の外に、あるテーマを考えてコーナーを設けて、飾ってみました。「よかったね。」の声もいただき、今年度も何か考えて飾ってもいいかなと思っています。

皆さんのいろんな作品を見せていただき、目の保養、心の保養となるように、公演・催物も楽しみにしております。



ひとこと

創る人触れる人

大類つとむ

60回を超す歴史を持つ尾花沢市民文化祭をふり返ると、沢山の思い出が湧き上がってくる。芸術的レベルの向上がなされたかと言えばやや疑問があるが、毎回多くの方々の力があってこそその六十年余であろう。つくづく頭の下がる思いである。

文化、芸術（近年アートの呼び方が多いようだが）は実に曖昧でその基準もゴールも決して見えない。故にその基準とゴールは創造する作り手と、それをしっかりと受け止め接する人それぞれの身体の中にあると言ってもよい。こう言うと何か難しい事を言っているようだが、何のことはない絵はその前に只立てば良いし、音楽には黙って座れば良いし、工芸品は坦々と使えば良い。ひと言加えれば、作品に触れた感想を作者に素直に伝えるという事であろう。

これは展示も公演も同じ事で市民文化祭に「すごいちゃー」の声は聞こえてもその様子が殆ど見られないのが残念である。創造者はいつも自身への評価を厳しく行っている。しかしまた別の角度からの目を期待していると言ってよい。作品の理解は出来なくとも、互いの尊重と敬意が文化芸術の発展につながるのではないだろうか。

ひとこと

「郷土尽心」の思いを引き継いで

上の畑焼 松浦 加奈

令和6年7月、父伊藤瓢堂は、闘病の末、息を引き取りました。皆さまにはたくさんの心温まる励まし、お言葉を頂戴いたしましたこと、心より御礼申し上げます。

瓢堂は、江戸末期に途絶えた上の畑焼を情熱を持って復活させ、その活動を通して、生まれ故郷の文化・芸術のさらなる向上を図りたいという思いを常に持っておりました。そして、様々な文化のジャンルの垣根を取り払い敷居を低くし、芸術を普段の生活の中で身近に感じてほしい、また郷土に誇りを持ってもらいたい、その一心で活動してきました。

芸文協会を始め、父が属しておりました「おばなざわ匠の会」、応援して下さったたくさんの方々に支えられ、父の思いは花開き、叶えられたのではないかと感じております。その感謝の気持ちを胸に、父の遺志を引き継ぎ、これからも尾花沢の文化・伝統・芸術の一つとして手に取っていただけるよう取り組んで参りたいと存じます。これからもどうかご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



第61回 市民文化祭フォトギャラリー



開幕式 ～市民歌斉唱～



開幕式 ～尾小4年生による花笠踊り5流派披露～



故 伊藤瓢堂氏特別展



小中学生の作品



尾花沢中運動会看板展示



龍生派愛好会



正派若柳流延弥会



市民茶会 ～尾小茶道クラブと共に～